

平成 30 年度那覇市民意識調査報告書について (4/17 定例記者会見資料)

平成 31 年 4 月 企画調整課作成

I. 調査の目的

日常生活に関する市民意識の把握と、市が取り組んでいる政策に対する市民満足度と重要度を把握・分析し、今後の市政運営に反映させるための参考資料とする。また、第 5 次那覇市総合計画の施策ごとに設定された指標について、本調査にて進捗管理を実施するとされているものを引き続き調査実施した。

なお、今回より第 5 次那覇市総合計画に基づく調査となったことから、質問項目について大幅な見直しを行った。また、満足度・重要度調査については、第 4 次那覇市総合計画と政策の内容が大きく異なっているため、留意いただきたい。

II. 調査項目（質問総数は、分岐質問含め 50 問）

(1) 基本項目（5 項目）

性別、年代、居住地区、居住年数など

(2) 日常生活等に関する意識調査（19 項目）

住み心地、協働、子育て支援、防災対策など

(3) 第 5 次那覇市総合計画の指標調査（3 項目）

地球環境保護のための実践項目数 など

(4) その他（市民の幸福度調査）（1 項目）

(5) 政策に対する満足度・重要度調査（2 項目）

小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり など

III. 調査の実施結果（郵送法にて実施）

(1) 調査票送付実数 5,000 人

対象：本市の男女比率、各年代比率、各地区（本庁、真和志、小禄、首里）の人口比率に応じて等間隔により抽出した、満 18 歳以上の市民

(2) 回収実数 1,264 人

(3) 回収率 25.3%

(4) 調査期間 平成 30 年 9 月 1 日～9 月 30 日（30 日間）

(5) 集計 コンピュータによる単純集計・基本項目とのクロス集計

IV. 調査結果の概要

報告書 P19～P29（調査全体の総括） P31 以降は各調査の詳細

(1) 日常生活等に関する意識調査結果（新規質問や主要項目等の結果に注目）

① 那覇市に対する愛着度（質問 6、6-1）

那覇市に「愛着を感じる」と回答した市民の割合は、79.3%で過去最高となっている。（前回調査 72.9%）

・愛着を感じる理由は、「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」が 72.7%（728 人）、
「公共交通の便がよいから」57.6%（577 人）、「公共施設（公民館・図書館・支所等）が
充実しているから」14.4%（144 人）の順となった。

※調査結果の詳細（報告書 P36～）

② 那覇市の住み心地（質問 7）

「非常に住みよい」「まあ住みよい」と回答した市民の割合は、前回調査を維持している。

・「非常に住みよい」と「まあ住みよい」の“住みよい”と感じている市民の割合は、
過去 2 番目の 65.2%。（過去最高は、H26 調査の 65.4%。前回調査は 65.1%）

※調査結果の詳細（報告書 P40～）

③ 自治会や校区まちづくり協議会等地域コミュニティへの参加状況について（質問 8）

「参加している」市民の割合は 31.7%、「参加していない」市民の割合は 57.9%。

・「参加している」31.7%（前回調査 31.1%）で前回とあまり変わらない。
・「参加していない（今後参加したい）」25.0%（前回調査 20.6%）、「参加していない（今
後も参加しない）」32.9%（前回調査 39.0%）となっており、「今後参加したい」と希望す
る市民が増えている。

※調査結果の詳細（報告書 P42～）

④ 市政への関心（質問 10）

「関心がある」と回答した市民の割合が 6 割以上を維持している。

・「非常に関心がある」と「まあ関心がある」の“関心がある”市民の割合は、63.2%（前
回調査 65.3%）

- ・「まったく関心がない」「あまり関心がない」と回答した割合が高いのは、年代別では「20代」、居住地区別では「小祿地区」、居住年数では「1年未満」となっている。

※調査結果の詳細（報告書 P50～）

⑤ 「性の多様性」の取り組みについて（質問 17）

「賛成」・「どちらかといえば賛成」と回答した市民の割合が約8割を超えており、市の取り組みが概ね受け入れられている。

- ・「賛成」46.8%（前回調査 38.6%）「どちらかといえば賛成」33.3%（前回調査 20.7%）の合計は 80.1%（前回調査は 59.3%）。
- ・「反対」5.6%（前回調査 6.6%）「どちらかといえば反対」10.4%（前回調査 9.2%）の合計は 16.0%（前回調査 15.8%）
- ・前回調査では「わからない」25.4%と回答した市民の多くが、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答したことがうかがえる。

※調査結果の詳細（報告書 P66～）

⑥ 市街地活性化について（質問 23）

中心市街地商店街における市民離れが前回調査より進んでいる。

- ・「全く行かない」と「年1～2回」の“ほとんど行かない”市民の合計は下記のとおり。
 - 「国際通り」は 59.4%（前回調査 57.0%、H26 調査 52.7%）
 - 「マチグラー」は 69.5%（前回調査 67.1%、H26 調査 65.5%）

※調査結果の詳細（報告書 P80～）

⑦ 健康について（質問 31） <新規質問>

1回30分以上の運動（ウォーキングなどを含む）にどの程度取り組んでいるかについて、「関心はあるが機会がない」市民の割合が29.7%と最も高い。

- ・運動に取り組む頻度としては、「週1～2回程度」23.6%（298人）、「週3回以上」16.1%（203人）、「ほとんど毎日」14.2%（180人）の順となっている。
- ・30代～50代では、「週3回以上」運動に取り組む人の割合が比較的低いことから、働き世代の運動を継続させる取り組みが求められる。

※調査結果の詳細（報告書 P100～）

⑧ 防災対策について（質問 39） <新規質問>

市民が実施している防災対策について、「特にやっていない」と回答した割合が 39.4%と最も高い。

- ・実施している防災対策については、「避難場所・経路の確認」 26.1%（330 人）、「家族間での連絡方法の確認」 21.2%（268 人）、「非常用食糧の備蓄」 18.7%（236 人）の順となっている。

※調査結果の詳細（報告書 P116～）

（2）その他

- ・市民の幸福度（質問 57）

10 点満点中 6.52 点（前回調査 6.73）

- ・前回調査より 0.21 ポイント減少したものの、過去 2 番目に高い数字を維持している。
- ・属性別に見ると、性別では「女性」、年代別では「10 代」、居住年数別では「11～20 年」、居住地区別では「本庁地区」の割合が最も高い。

※調査結果の詳細（報告書 P131～）

（3）那覇市の政策に対する満足度・重要度調査の調査結果

第 5 次総合計画で掲げた 23 の政策について、市民の意識を現すため、全政策の得たポイントを集計した平均値との相対評価を実施した。

満足度平均評価点：2.38

- 1 位：衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり（2.73）
- 2 位：交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり（2.62）
- 3 位：身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり（2.60）

重要度平均評価点：3.16

- 1 位：子育てが楽しくなるまちづくり（3.39）
- 2 位：身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり（3.38）
- 3 位：地域で暮らし、地域で支えるまちづくり（3.33）

※調査結果の詳細（報告書 P135～）